

競技注意事項

1 競技規則について

- (1) 本大会は、2024年 公益財団法人 日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。また、本大会は、WRK 対象競技会とする。ただし、リレー種目と投てき種目については WRK 対象競技会としない。
- (2) 審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズは、チェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。なお、本大会における全フィールド種目において、「靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない」の規程について適用を除外する。

※「LIST OF APPROVED ATHLETIC SHOES Shoe Checker」を参照してください。

(<https://certcheck.worldathletics.org/FullList>)

※競技用靴・靴底厚さ表(2024年10月31日まで)

種目	靴底最大の厚さ	要件備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内でおこなう競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じ40mmとする。

2 練習について

- (1) 練習の時間帯は、下記の通り。

	本競技場	補助競技場
9月12日(木)	13:00~17:00	13:00~17:00
13日(金)	7:30~ 8:30	7:30~17:30
14日(土)	7:15~ 8:20	7:15~17:45
15日(日)	7:15~ 8:20	7:15~

※本競技場では、競技会運営の準備も並行しておこなうので、安全に十分注意すること

- (2) 本競技場での練習は、トラック・跳躍種目とする。また、用具については、補助競技場を含め競技場備え付けの物を使用すること。ゴムチューブ等を使用してのスピード練習は全面禁止とする。
- (3) 本競技場のフィールド内芝生は、全面立入禁止とする。補助競技場のフィールド内ではスパイクシューズ・ミニハードル・ラダー・シートの使用を禁止する。
- (4) 投てき練習(メディシンボール練習等も含む)は、公式練習以外、競技場内外を問わず一切禁止する。ただし、投てき専用サークルでのフォーム練習等は認める。(投てき物の使用は一切認めない)
- (5) 練習会場での練習は、事前に注意事項を確認し遵守するとともに、必ず競技役員の手指示に従うこと。
- (6) 練習会場の詳細は、別添「練習会場図」を確認すること。
- (7) 補助競技場でのリレー練習において、マーカーは各チームが準備した養生テープを使うこと。テーピングなど粘着性が強い物の使用を禁止する。
- (8) ウォーミングアップ等は補助競技場で行うこと。本競技場のスタンド通路、2階スタジアムリング、駐車場周辺などでは禁止とする。
- (9) 雨天練習場は、ウォーミングアップ等には使用できない。ただし、天候によって主催者判断で使用可能とする。

3 招集について

- (1) 招集所は、GATE3バックスタンド下に設ける。
- (2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻は、プログラムの競技日程欄に記載されている。
- (3) スマートフォン・タブレット・通信機能がある電子機器などを招集所内・競技エリア内に持ち込むことを禁止する。なお、日傘のフィールド内の持ち込みも禁止する。
- (4) 招集の手順
 - ① 競技者は、招集開始時刻までに招集所で待機し、競技者係の点呼を受ける。その際、アスリートビブス、競技で使用するシューズの確認を受ける。
 - ② トラック種目は、競技者係の点呼を受け、同時に腰ナンバー標識を受け取り、両腰のやや後方につけること。男子5000m・3000mSC・5000mWと、女子3000m・5000mWは、別ビブスも受け取る。また、ゴール後計測チップを返却すること。
 - ③ 代理人による招集の点呼は認めない。ただし、同日に2種目以上にわたって同時刻に出場する競技者は、第1種目の招集開始時刻までに、本人が所定の「多種目同時出場届」(用紙はTICに準備)を招集所へ提出し、併せて招集を受けることができない種目の点呼(アスリートビブス、競技で使用するシューズ等の確認)を受けておくこと。なお、種目間の移動は、マーシャルの指示に従うこと。
 - ④ 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものとする。
- (5) リレー種目について
 - ① 「オーダー用紙」は、各ラウンド(予選・準決勝・決勝)ともに、その種目の第1組目の招集完了時刻の2時間前から1時間前までに招集所へ提出すること。プログラム巻末の所定の用紙に、必要事項を記入のうえ提出すること。「オーダー用紙」の提出がない場合は、出場する意思がないものとみなし処理する。
 - ② 出場メンバー全員が点呼を受けること。ただし、他種目に出場している場合は、上記(4)③に準ずる。
 - ③ 4×400mRの第2・3走者は、次走者の待機順を明確にするため、左腰に腰ナンバー標識をつける。
 - ④ ユニフォームは、同一校と判断できるものを原則とする。
- (6) 招集所から競技場所への移動は、競技者係の指示に従うこと。
- (7) やむなく欠場する場合は、招集開始時刻までに「欠場届」を招集所へ提出すること。用紙は、プログラム巻末の所定の用紙を使用すること。

4 競技進行について

- (1) 番組編成及びラウンドの通過について
 - ① トラック種目の予選のレーン順、および跳躍種目の予選・投てき種目の決勝の試技順は、すべてプログラム記載左側に示された番号順とする。なお、準決勝以降の組み合わせは、すべて番組編成員がおこない、場内アナウンスするとともに、「滋賀県高体連 陸上競技専門部のWEBページ」に掲載する。
 - ② トラック競技における次のラウンドへの進出者について
 - (ア) $(+\alpha)$ を決めるとき、その最下位で同成績(0.01秒単位)が出た場合、0.001秒単位で着差の判定をする。
 - ・レーンに余裕がある場合：同成績(0.001秒単位)の競技者の出場を認める。
 - ・レーンに余裕がない場合：当該競技者または代理人がTICにて抽選する。なお、アナウンスして15分経過しても当該競技者または代理人がTICに来なかった時は、主催者が代行して抽選を行う。
 - (イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、 $(+\alpha)$ での進出者数を減らす。
 - (ウ) オープンレーンを使用する種目(800m含む)は、同成績(0.001秒単位)の競技者は、全員次のラウンドに進める。
 - (エ) 800mについては、空きレーンがない場合でも第8レーンに2名の競技者を配置する。第8レーンの次には第3レーンに2人を配置する。
- (2) 競技について
 - ① 当該種目出場の競技者以外は、競技エリア内に立ち入ることはできない。
 - ② スパイクのピンの本数は、11本以内とし、長さは9mm以内のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については12mm以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合しなければならない。
 - ③ アスリートビブスは、配布された大きさのままで、ユニフォームの胸部と背部つけること。ただし、跳躍種目に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。
 - ④ 不正スタートについては、一度の不正スタートでもその責任を有する競技者は失格とする。
 - ⑤ 男女5000mWはスタート後 男子30分・女子35分で競技終了とする。
 - ⑥ 男子5000m・女子3000m・男女5000mWは、危険防止のためグループスタートでおこなう。
 - ⑦ トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
 - ⑧ 4×100mRのマーカーは、主催者が準備し、競技前に各コーナーで役員が配布する。競技終了後、必ず自チームのマーカーを前走者が取り除くこと。

⑨フィールド競技について

(ア) 競技場内の練習は、すべて競技役員からの指示に従うこと。投てき競技の練習は原則2回とするが、進行状況などにより回数の変更がある。跳躍種目については、下記の表を確認すること。

走高跳	フリーで足合わせ、公式練習2回
棒高跳	試技順に足合わせ1回、公式練習2回 ※ゴムバーを使用する
走幅跳・三段跳	公式練習2回

- (イ) 男女走幅跳は、1年はBピット(スタンド側)、2年はAピット(トラック側)でおこなう。
- (ウ) 三段跳の踏切板は、男子：12m00、女子：1年は9m00、2年は10m00に設置する。
- (エ) 跳躍種目、及びやり投の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)に主催者が用意したマーカを2つ置くことができる。また、サークルで行う投てき種目は、マーカを1つだけサークルの外側に使用することができる。使用することができるマーカは、競技役員が現地で渡す。
- (オ) 近接の観客席に「コーチ席」を設けるので、競技者への助言はすべてコーチ席からおこなうこと。踏切板付近の助言は禁止とする。
- (カ) メインスタンド前ピットやバックスタンド前ピットで行われる跳躍種目において、録画再生機器等をスタンドからの手渡しや吊り下げなどにより競技エリア内に持ち込むことを禁止とする。
- (キ) サイドスタンドでは、コーチ席内から録画再生機器等を選手に手渡してもよいが、確認後すぐにコーチ席内に戻すこと。
- (ク) 手拍子を求めることについては、TOP8以降(走高跳・棒高跳においては上位8名程度)に限る。

⑩競技場内での練習は競技役員からの指示に従うこと。

(3) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方について

男子 走高跳	1年	(練習) 1m70 1m86	1m75-80-83-86	以後 3cm ずつ
	2年	(練習) 1m75 1m91	1m80-85-88-91	以後 3cm ずつ
女子 走高跳	1年	(練習) 1m47 1m56	1m50-53-56-59	以後 3cm ずつ
	2年	(練習) 1m50 1m59	1m53-56-59-62	以後 3cm ずつ
男子 棒高跳	1年	(練習) 3m10 3m80 4m50	3m20-40-60-70	以後10cm ずつ
	2年	(練習) 3m50 4m00 4m50	3m60-80-4m00-10	以後10cm ずつ
女子 棒高跳	1年	(練習) 2m20 2m80 3m40	2m30-40-50-60	以後10cm ずつ
	2年	(練習) 2m50 3m20 3m80	2m60-80-90-3m00	以後10cm ずつ

※同記録による1位決定のバーの上げ下げは、走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

5 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。競技場備え付けの投てき用具については、「投てき用具一覧」を参照のこと。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してもよい。その場合、出場競技者全員で共有できるものとする。競技終了後(決勝)、TICで返却する。なお、同校で1年2年ともに同じやりを使用する場合は、検査時にTICに申し出ること。
検査時刻は、競技開始時刻の90分前から50分前までとし、招集所付近に設置するTICでおこなう。
- (3) 棒高跳のポールの保管場所として、GATE3横倉庫に置くことができる。本競技場の練習時間帯であれば、各自で置くことができる。それ以外の時間帯であれば、TICに置くことができる。

6 競技結果と抗議について

- (1) 競技結果については、場内スクリーンに表示しアナウンスで発表するとともに、「滋賀県高体連 陸上競技専門部 WEB ページ」に掲載する。なお、競技結果が場内スクリーンに「OFFICIAL」と表示され、アナウンスされた時点を正式発表とする。
- (2) 競技中に起きた競技者の結果または行為に関する抗議は、各府県監督(当該校顧問同伴)より、その種目の結果が正式発表されてから30分以内(同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内)に、審判長に対して口頭でなされなければならない。抗議者はTICに口頭で申し出ること。
- (3) 抗議に対して審判長は速やかに裁定し、TICを通じてその裁定を伝える。この裁定に不服がある場合は、各府県監督(当該校顧問同伴)が、預託金10,000円を添えて「上訴申立書」(TICに用意)をTICに提出しなければならない。なお、「上訴申立書」の提出時刻は、審判長による裁定の公式発表または抗議者に対する通告から30分以内(同一日に次のラウンドが行われる種目では15分以内)とする。

7 表彰について

- (1) 各種目 3位(リレーは6位)までの入賞者は表彰をおこなうので、結果発表のアナウンス後直ちに、受賞者席(メインスタンド下中央ロビー)に、役員の指示に従って集合すること。
- (2) 表彰式では以下の表彰を行うので、当該校(者)は必ず参加すること。
 - ①総合3位までに入賞した学校(男子総合・女子総合・学年別男子総合・学年別女子総合)
 - ②男女各学年の優秀競技者
 - ③男女各総合優勝校の顧問・監督

8 一般的注意事項

- (1) 本競技場の開門は、「屋外階段1」、「GATE1」、「GATE2」とする。
開門時間は、9月13日(金)は7時30分、9月14日(土)・15日(日)は7時15分とする。
- (2) テント、シート、横断幕、のぼりについて
 - ①事前に各府県で割り当てられた場所を使用し、指定されている範囲を越えての場所取りは禁止する。
 - ②競技場内外の場所取りは、各府県で割り当てられた場所以外は一切禁止する。
 - ③競技場周辺の芝生への立ち入りを禁止する。
 - ④割り当てられた場所でテント、シートは使用しても良いが、飛ばされないように留意すること。
 - ⑤競技場内外に設営しているテント・シート等は毎日撤去し、持ち帰るか小さくまとめてその場所に置いて帰ってもよい。(破損、盗難等の責任は負わない)
 - ⑥横断幕の設置は各府県で割り当てられた場所に設置すること。また、サイドスタンドにおける横断幕設置については、「滋賀県高体連 陸上競技専門部 WEB ページ」を参考にすること。なお、横断幕は大会期間中設置したままでもよい。
 - ⑦のぼりの設置は、スタジアムリング外回り手すりに設置すること。
- (3) 競技者は、役員の指示がない限り競技場内(本部席前)の横断や通過はしないこと。
- (4) 応援は競技運営に支障ないように行うこと。特に、メインスタンドや各フィールド種目競技場所付近での集団応援は禁止する。
- (5) スタンドの手すりにもたれての応援や観戦はしないこと。また、通路に立っての応援や観戦もしないこと。
- (6) 更衣室の使用は、更衣のみとし、使用後は速やかに退室すること。また、一切の私物を置いてはならない。
- (7) 競技中に起こったケガについては、主催者は応急処置のみを行う。
- (8) スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、ゴミ等は各校で持ち帰ること。駅・競技場周辺のゴミ箱等には絶対放置しないこと。
- (9) 本競技場内や補助競技場内での日傘の使用は安全確保の観点から禁止する。
- (10) 貴重品、荷物等は各自・各校で管理し、盗難等に十分注意すること。
- (11) フィニッシュ後のスタート地点への移動等は、競技役員の指示に従うこと。また、通行禁止や使用禁止の表示のある場合は、厳守すること。
- (12) 個人情報の取り扱いに関して
 - ①本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外に使用しない。
 - ②参加申込書の提出により、上記①の取り扱いに承諾を得たものと見なし氏名・学校名・学年・記録を紹介し掲示板に掲載する。また、本大会が認めた報道機関にも公表する。入賞者は報道機関の取材を受けることがある。
 - ③本部が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・大会報告書・ホームページ等で公表されることがある。